



第91回日本結核病学会総会の 開催にあたって

会長 石崎 武志(金沢医科大学教授・福井大学名誉教授)

この度、第91回日本結核病学会総会会長を仰せつかりました。かつて結核王国とも呼称された北陸の地には戦前に旧金沢医科大学に結核研究所も併設され、多くの先人が結核撲滅に骨身を削りました。その北陸の地で伝統のある本学会を開催できます幸せと重責とを感じています。

会員の皆様のご協力で優れた研究成果が寄せられ、総演題数323題、うち招請講演2題、特別講演2題、教育特別講演1題、教育講演8題、シンポジウム43題、ミニシンポジウム6題、会長講演1題と充実した企画ができました。苦勞されたプログラム委員の方々にも感謝申し上げます。

我が国の結核病罹患率は緩やかに減少を続けていますが、呼応するかのように卒前の結核学部教育の希薄化が卒後の医療従事者に抗酸菌症は過去の問題と看過されがちとなり、また、国民の結核脅威への関心の低下も周知のことです。そこで、本学会のテーマを「医療スタッフの抗酸菌症卒後教育—よりよいチーム医療を求めて—」と致しました。医療職への効率的な卒前・卒後教育を考える種々のプログラムを編成し、さらに、新しい抗酸菌症診断、免疫学的補助診断法、LTBI、(在日)外国人結核などにも力点を置きました。

本学会では2012年度に結核・抗酸菌症認定医・指導医制度が、そして、2014年度から非医師職学会会員・非会員向けに抗酸菌症エキスパート制度をたちあげていますが、若手会員向けに結核診療の最新知識と技術とを提供するべく(卒後)抗酸菌症エキスパート集中セミナーを新たに企画しました。

日々の診療レベルの向上、研究のアイデア、啓発活動方法、チーム医療の習得などを得ることのできる2日間になることを祈念いたします。

会期時期は新緑の映える兼六園、金沢城が山海の珍味とお酒とともにお待ちしておりますので滞在中におもてなしを堪能していただきたいと思います。

第91回日本結核病学会総会 プログラム委員

委員 石塚 全(事務局長)、猪狩 英俊、桑原 克弘、今泉 和良、松本 智成、磯部 威、福島喜代康

(順不同)